



記念講演



演 題

「地域の繁栄は国の繁栄」

講 師

金 美 齡 氏

きん びれい

飛騨高山という地は、40年前にゼミ旅行でわざわざ来訪した地です。日本でも行きたいと思う地は少ないですが、この地は何度か訪れたい地です。

私は土産物というものは殆んど買いませんが、この地にある春慶塗には魅せられて、履きもしない下駄を買い、未だに飾ってあります。

この地には伝統文化というものを感じ、飛騨高山という独特の美意識がある。

日本は小さな国と思っている人が多いが、ヨーロッパで日本より大きな面積を持つ国はフランスぐらいで、それぞれの国は小さいながら自分の国が一番だと自負している。それだけ自分の国を愛しているということでしょう。

日本人は自分の国に対する愛情に欠けています。

日本の排他的経済水域は世界で6位ぐらいの海資源に恵まれています。中国は面積の割には排他的経済水域が少なく、今回の尖閣諸島問題等は中国の太平洋への進出を狙っているのが見え見えます。国の根幹は、国民が幸せでなければ何にもならない。国力がどうのこうの言う前に国民が幸せかどうかが大事です。

日本人ほど恵まれた国民はいない、国が安定して安全で豊かであることに気付いていないのです。

地域のリーダーであるロータリアンは今は何を為すべきかを考え、自分たちの活動をもっとアピールすべきです。

宅急便が成立するのも、日本が約束の世界に成り立っているからで、世界でもこれだけ約束事が守られる国は少ないです。

日本ほどインフラ整備が整っている国は少ない。

メンタリテイな世界が存在する日本の社会基盤の細かな制度にあります。

私の主人はロータリーの米山奨学金に4年間お世話になり、東大へ行くことが出来た。過去は1年間に1,000人も奨学生がお世話になっていた時代がありました。このことを世間の人はあまり知らない。奉仕の精神の立場から、もっと宣伝すべきです。

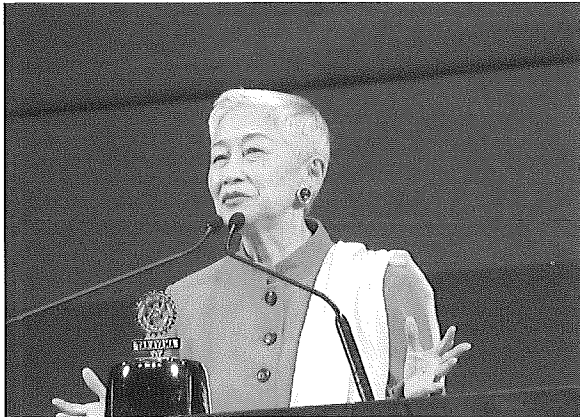
このことを宣伝することは、社会に貢献していない人に影響します。

福祉の話になると、人はすぐ施しを受ける側になって考える人が多く残念です。福祉を支える側になりたいと思わなければいけないし、福祉を支える側に立って福祉政策を捉えなければ良い策は出ないでしょう。

福祉が進めば進むほどインフラ整備が弱まってしまうのを危惧しています。

「不易流行」を國島高山市長が述べられていましたが、このことは高山だけの問題ではなく、全国どの地にも当てはまることです。何時の時代にも、世に変わらないことがあれば、変えなければいけないのが疑問です。





台湾人は日本人の素晴らしさを「日本精神」ということばで賛辞しています。これは日本人の倫理観は宝物ということと、農耕民族たる日本人独特の美徳が生んだ結果、台湾の統治下時代、悪いこともあったが良いことのほうが多かった結果が「日本精神」ということばを日本人の精神に対して台湾人が創ったのでしょう。

メイドインジャパンに対する信頼感は異常なほどです。それだけ日本製品が信頼に値する商品を創りだしていることに、台湾人は偽物の世界ではない、本物志向からわざわざ日本へきて、メイドインジャパンを購入してゆくのです。

戦後の日本人の政治に対する投票権の履行態度には呆れるものがあります。安易な投票で決して真の政治家は生まれえないし、国民の資質が問われる大事な点です。

何でも見抜く力が中々育たないのが現在の世の中で、国際社会の中で外交は何がネックになっているのか？国力という面だけではないのです。日本の外交は領土問題など相手国に言われ放しだが、根本的に領土は一度取られたら、戦争でもない限り返さないのだから、日本のように戦争を放棄している国にとって、現有の領土保全というものを真剣に捉えてゆくことが、自分の国を愛するかという問題になります。

偏狭な愛国心の中で、地域の伝統文化、地域の歴史文化を大事にしているが、人の流入によって町は変わらざるを得ないが実情で、何で変えられるのか？何処まで変えられるのかが、一つの美意識だと思っています。

農耕民族の日本人が狩猟民族に勝利するには、一人でもハンディに何万人と言えども我行かんといい構えが大切です。日本人の代表となる人

は、農耕民族の美徳と狩猟民族の覇気、勇気が必要です。こういった代表を育てて送り出さねばいけないのです。

この事はオリンピック選手を何人出すかどうかより大切なことですし、もっと日本の国益を守ってくれる人を育てて欲しいのです。

戦後、日本人が勘違いしているのは「平等」という意識。立場、原則が違うのに間違った教育がなされてしまったのです。

この教育制度の改革が今後の日本の将来を良くも悪くもする要因になります。 (要約)

《総括》

金先生は日本人よりも日本を愛し、日本という国を守るにはどうしたら良いか将来を危惧されていた。

日本人は日本という素晴らしい国にもっと自信を持ってアピールすべきだし、外交に至っては遠慮しないでどんどん主張すべき立場にありながら、引っ込み過ぎる気来がある。

日本の優位性はどんどん伸ばしていくべきである。

日本人は政治に対する参画にも、安易に取り組みすぎる傾向が顕著に見られる。選挙で選ばれる選良については最も反省すべきで、真の代表たるものを選出すべき立場にいることを忘れてはならない。

高山の良さは伝統文化に支えられた歴史と風土が大切に守られていることだが、今後将来に向かって、どう町を変化させ、変えるところは替え、変えざるところは替えない確固たる信念が必要です。これが「不易流行」の根本です。

